

第5回 生駒市史編さん委員会会議記録（要旨）

- 1 日時 令和6年2月21日（水）13：30～14：55
- 2 場所 生駒市役所403・404会議室
- 3 出欠（敬称略）
（参加者）谷山正道、吉川真司、天野忠幸、高木博志、神田雅章、山本昇、原井葉子、八重史子
（事務局）西野図書館長、錦図書館課課長、清水生涯学習課長、伊田市史編さん係員、
西野市史編さん係員
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

（1）令和5年度各分科会活動報告

古代史

資料・遺物の調査を各自進めている。

中世史

史料の検索が終わり選定。ページ数にとらわれず資料を選び入力を進めている。ページ数がまとまったらさらに絞り込みを進める。赤色立体地図の要望（中世・古代）。古代史との境目を相談するかもといった状況。

7年度に古代・中世の本編、追って史料集も発刊。史料集掲載用の資料を収集し、翻刻作業を進めている。古代史と執筆部分が重なっても構わないので、遺跡や文献などから研究し、内容が相違することのないよう書きながら調整する。

近世史

今年度末に史料集の原稿を揃え、来年度初めに入稿できる。解説含め450p。3月に原稿を集め、4月に入稿。また寺社調査を進めている。個人・区有の文書はほとんど調査済みで、これまでから依頼している大口の所蔵者の史料など見せていただけるなら調査を行いたい。

近現代史

様々な分野で調査を進めている。特筆すると大阪・京都に比べ、生駒の行政資料が明治末から残っているのはとても珍しい。2つ目は北倭の有山武兵衛文書の整理中である。大正期の新聞調査はほぼ終了。昭和以降は県立図書情報館で調査を進めている。現代史の地理チームとも会合をもち、戦後の住宅開発の問題、70年代以降の問題は連続性があるのでどう進めるか、生駒の明治以来の政治の現代化が興味深いところである。

文化遺産・自然

建造物は昨年度から歴史的建造物調査を進めている。今月から理想郷住宅の調査も進めている。石造物は一度悉皆調査を終えているので近世以降のものも含め見直しを行う。民俗はそれぞれ調査を進め情報交換の場を設けるなどしている。文学分野は資料収集をしながら調査を進めている。自然分野は昨年夏に初会合を行い、植物・魚類調査などを行った。美術工芸は残り10数件で終了し、南の報告書を出してから市史の執筆を進める。

(2) 刊行計画について

- ・前回の委員会で史料集 2・3 を地域別から時代別で刊行を決定したうえで、近世のなかで史料集 2 を「近世編 1」とし、各村を支配領主ごとにまとめ総地域・郡山藩領・旗本堀田氏及び森氏知行所を掲載。
- ・史料集 4 を「近世編 2」として残りの旗本松平氏知行所の史料をまとめて刊行し、もともと掲載を予定していた生駒陣屋（松平氏の陣屋）の史料は非常に膨大な数であり、翻刻にも数年かかるため陣屋の日記などは 9 集以降であらためて発刊する計画に変える。編さん期間内で日記等の翻刻は進め、原稿を完成させる。
- ・全巻出そろったときに「近世・近代史料集 3」と「近世・近代史料集 4」の番号のみを入れ替えると近世編 1・2 に続いて近代編が来るので並びがよいため表記を一部修正する。
- ・近代史料では、予算・人員確保も必要となるから 8 集以降に掲載候補・刊行年度を明確に企画する。

(3) 『市史』章・節について

◆字数・ページ

- ・前回の委員会で A5 版に決まったが、各分科会から A5 サイズでは文字数が少ないので字数を増やしたいという意見が多く出た。B5 版との差を埋めるべくページ数を 250p 増量し、750p 上限として作成する。ただし、500p で分量が足りる場合はそのまま構わない。
- ・1p あたりの文字数は 756 字のままとし、読みやすい市史になるようふりがなを多用する。
- ・近代現代史などでは、多めのページ増を希望されているが、刊行順で古代・中世、近世、近現代と続くので、早い刊のページ数を見て、分量のバランスをみて、分冊も視野に入れていく。

◆章節について

古代

1 章は導入。考古と文献を扱うが分けずに時代順にそれぞれを見ていく。

中世

北河内・南山城・大和という視野で畿内の一角として書いていく。

近世

スタートは天正 13 年。近代との境目は廃藩置県とする。

近現代

近代は歴史・現代は地理のメンバーが集まっている。昔は北倭村の生産力が圧倒的だったが大軌が開通するとまちが出来上がり、色々な切り口が可能になる。生駒町では近代化と現代化が同時に進み、大阪との関係を書いていきたい。1947～8 年からを戦後として時代区分を考えている。

第 2 編の第 7 章で第 2 節は、人口急増・新住民の転入によってハード整備から市民力の活性化など行政や議会の歩みが大きく変化した。市長の任期で区切るとそれぞれの市政の評価のようになるので、構造で区切るようにする。

文化遺産

個別に章立てを出たばかりですり合わせができていない。地域別・時代別にならざるを得ないが、ここからどうストーリーを描くかが大事だと感じている。各分野によって、悉皆調査

が終わっているところは言われたページ数に合わせることが可能。

分野と分野で重なるところは各分野の代表と事務局で調整する。

(4) イベント事業について

来年度は、講演会を近世史に担当していただく（担当：岩城・橋本、進行：谷山）。
地域学習会を南地区で開催予定。

(5) その他

<その他意見>

先日講演会に聴講したが大勢参加されていたしとても感銘を受けた。多くの方が活用できる『市史』にしていきたいと感じた。何十年に一度の大きな事業なのでしっかり進めていきたい。

先生方が熱心に進めていただいているが、より一層の市民への周知が必要であるため、広報を強化していかなければと感じているのでぜひご協力いただきたい。

<事務局から>

章節については、各分科会やさらに時代や分野を超えて調整していってもらうため、全体に周知させていただく。それを受けて調整をお願いしたい。

以上